

GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

代表 原田 邦昭

令和2年10月発行

創刊 平成5年7月16日



群馬県環境アドバイザーの登録状況

(令和2年10月20日現在)

第11期(登録期間:平成30年4月1日～令和3年3月31日)の登録者数は、新規登録者を含め、男性187名、女性97名、合計284名です。

自然環境部会 124名 温暖化・エネルギー部会 95名、ごみ部会 84名、広報委員会 26名が登録し活動されています。

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。

<http://www.gccca.jp/volunteer/>

8月末の朝、庭の木犀の枝に止まり30分も鳴いていたでしょうか。ひと際大きな声で鳴き続けるので探して撮影してみました。見慣れない鳥で調べるのに手間取りましたが、ガビチョウという鳥のようです。外来種で高く飛ばず渡りもしないことから、愛玩用に輸入されたものから野生化したのではないかとのこと。しばらく居着くかと思いましたが、飛び立っていったようです。

表紙写真・文 編集委員 小峯幸子

目次

- P2 環境政策課
- P3 副代表 角田 和男
- P4 自然環境部会、ごみ部会
- P5 温暖化・エネルギー部会
- P6 高崎 小峯 幸子、渋川 伊藤 朝弘
- P7 高崎 水井 清、桐生 星野 定利
- P8 顧問 鈴木 克彬、編集後記

～令和2年度エコカレッジ進捗状況～

群馬県 環境森林部 環境政策課

県では、例年ぐんま環境学校（エコカレッジ）を実施しています。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で延期や中止となった講義もありますが、9月12日までの進捗状況をお知らせします！

★7月4日★ 森林ボランティアや気候変動について学びました。



★7月12日★ 森林学習センターで、森林ボランティアの体験をしました。



★8月1日★ 環境学習サポーターの指導の下、動く環境教室の実験を体験しました。



★8月23日★ 白毛門駐車場にて、オオハンゴンソウの駆除と自然観察会を実施しました。



★9月12日★ 環境保全やSDGs、ESDについて学びました。



環境先進大国「ドイツ」の取組

～沼田市国際交流員クリスティーネ・バウアーさんに伺う～

副代表 角田 和男（沼田市）

ドイツミュンヘン市から沼田市国際交流員として赴任したクリスティーネ・バウアーさんが、2年間の任務を終え9月末に帰国されると伺い、急遽バウアーさんに再会し、ドイツの環境の取組みについてお聞きしました。バウアーさんは大学では日本学を専攻、語学堪能で日本語で対応してくださいました。

お久しぶりです。Guten Tag（グーテンターク こんにちは）。ティーネと呼んでください。

本題に入る前に、ティーネさんは、「沼田は自然が豊かで、街の皆さんはとても親切です。町内のことは回覧板で知ることができました。学校を訪問した際、玄関でスリッパに履き替えることや給食があることに驚きました。」と語りました。ドイツではスリッパの文化はなく、学校の授業はだいたい昼で終わり部活もないので、お昼ご飯はお家で食べるそうです。最近では午後までの授業も増えているそうですが…。

Q1. ドイツは言うまでもなく、環境先進大国ですが取組の一端を教えてください。

A1. そうですね。ドイツでは小さい頃から、ごみの分別を学んでおり、大人になってからも環境に対する意識が定着しているのです。国の方針として環境教育に取り組んでいます。

Q2. 沼田市のリサイクル率は約17%ですが、ドイツの状況を教えてください。

A2. ドイツのリサイクル率は60%を超えています。リサイクルを推進するための「デポジット制度」があります。例えば、ペットボトルや缶の飲み物を購入すると、商品代とは別に容器代金を支払うのです。飲み終わったら容器を返却すると容器代金が戻ります。廃棄物は4色の大型コンテナで分別収集しています。

私はマイフォークやお皿を持参し、プラごみを減らすように心がけたり、物を大事に長く使うように努めています。また、小さい頃から、私は紙の袋を用いていました。

Q3. ドイツのエネルギー事情についてお聞かせください。

A3. ドイツはヨーロッパ大陸のほぼ真ん中に位置し、ポーランドやデンマークなどの国々に囲まれています。北側は北海とバルト海に接しています。海岸や陸地に風力発電の風車がたくさん並んでいます。膨大な太陽光発電所もあります。できる限り再生可能エネルギーにシフトしようとしています。そのために「再生可能エネルギー法」を制定し、国民は節電に心がけ電気を大切に使っています。

余談ですが、2年間過ごした沼田では一度も停電はなく、素晴らしいと思いました。

Q4. 食品ロスの問題ですが、とくに日本の宴席にはたくさんの料理が並べられます。手つかずのまま廃棄される料理も出てしまいます。こうした日本のおもてなしについて、どう思われますでしょうか。

A4. 目の前にたくさんのお皿に盛り付けられた日本の料理は、私はとても楽しみです。朝食に出る納豆は体にいいと言うので、何度もチャレンジしました。でも、匂いが駄目です。ごめんなさいネ。

話題を変え、漢字に興味のあるティーネさんに好きな漢字をお聞きしたら、「“嵐”の漢字がバランスが良く、カッコいい」と答えました。

終わりに、ティーネさんから「環境意識を高めるためには、子どもたちへの教育が最も大切だと思います。低学年からごみの分別、節約などを勉強させることで、環境意識の高い年代が成長して社会がどんどん変わると思います。」と、お見事な日本語で書かれたメッセージを受け取りました。

では、日本語の「さようなら」ではなく、ドイツ語で“Auf Wiedersehen”（アウフヴィーダーゼーン）。またお会いしましょう、お話ししたことがお役に立てれば幸いです。

オランダに学ぶべきリユース（再利用）システム

ごみ部会 遠藤 功

環境アドバイザーとしてごみ部会に参画することになり、オランダの廃棄物対策を紹介する機会を得ました。仕事で駐在になったのは1997年末からですが、食品の容器や包装における簡素・統一化と回収再資源化は徹底しておりました。ビール瓶等は回収粉碎再成型（リサイクル）が機能し、また一部の飲料水については前払金（デポジット）制のリユース（再利用）が実施され、日本の一升瓶の回収再利用に似ていました。この容器は下部が補強された2mm肉厚ペット（PET：ポリエチレンテレフタレート）ボトルであったことが特筆されます。日本でペットボトルのリユース（再利用）を話題にすると、間違いなく「実現性のない理想論」と撥ね付けられます。しかしかの国では20数年前から整然と実施され、かつそれが適用範囲を大幅拡大して現在に至っているという事実です。

最新のネット情報では、ペットボトルは日本と同様の1mmのものに統一され、またビール瓶もリユースに進化したようで、いずれも右図のような専用の自動機で回収再利用されているようで、リユース比率が増加していることが伺われます。

日本では世界から称賛されている「もったいない」精神から生まれた瓶の再利用という貴重なノウハウを捨て、ペットボトル化とそのリサイクル（作業衣やカーペットへの再利用）へと舵を切りました。一方頑なにリユースに拘ったオランダと比較した場合、資源やエネルギーの利用効率に大きな差が生じていることは明らかです。さらに私の得ている情報では、オランダにおけるこれらのシステムの運営費は容器製造・利用・販売業者で賄われ、自治体が行う生ごみ等の回収費用（税金）とは別個に行われているということです。この負担は業者にとっては死活問題であり、容器の削減・統一や軽量化が常に緊急課題となり、結果的にごみの削減に繋がっているとのことでした。ケチの国と言われるオランダの合理性が、先見性に富んだ政策を生出し実践した結果であり、日本にも見習う点が多々あると思います。



当時の補強型ペットボトルと現在の自動回収装置

自然環境部会だより

自然環境部会 田中 和夫

恒例行事の高山村共有林の手入れ、を9月22日（祝）に行いました。

参加者10人と小野組合長の合計11人で作業しました。内容は下草刈り、クズのツル除去と地下茎除去、オオブタクサの除去などです。

天候に恵まれて順調に進み、クズの地下茎除去は完了しませんでした。林の見晴らしが良くなり、隣接する県道からもすっきり見えるようになりました。

その後栗拾いを、と予定していましたが今年是不作で期待外れでした。

今年最後の作業は11月8日（日）に行います。

また、11月14日（土）10時から前橋元気21で自然環境部会の例会を実施します。



参加された皆様

太陽光発電パネルの分布調査について

温暖化・エネルギー部会 国安 俊夫

温暖化・エネルギー部会の有志で「太陽光発電パネルの分布調査」を開始したので報告するとともに協力者を募集します。

近年太陽光パネルの設置が急速に広がっているが、木を切り敷地造成をしてまでメガソーラーを設置するという本末転倒な現象が出ており、環境や景観への悪影響や災害発生の可能性が懸念されている。また、法規制強化の動きに合わせ、駆け込み申請が行われ、認可は受けたがまだ着手されていないものが相当数あるとも聞いている。この傾向を放置することは問題あると考え、行政の担当者に現状を把握しているか質問したが、知らないとの回答であった。そこで、まずは自分たちで調査し、関係機関に対し問題提議してゆけるデータを作成することを目的にスタートした。

限られた人手と資金で調査するためには、極力公開されている資料を使って、専門的な知識がなくても実施可能な調査手法を確立する必要がある。当初、対象地域を赤城南面と榛名南面に絞り、Google マップの空中写真(2020撮影)を利用し、国土地理院が公表している GIS Maps 又は住宅地図に分布図を落とすという方法考えた。しかし、それぞれ著作権があり直接使用することが難しく、メンバー間で情報を共有したり資料として利用することが出来ないことが判明したため、実際に現地でも太陽光発電パネルの分布調査を行い、その際設置表示を写真等で記録を残し、表示が見つからない場合は規模等の記録を残すとともに、その結果をオープンストリートマップ (OpenStreetMap:OSM) へ落とし込む事とした。その手法を共有することを目的に学習会を開催した。

なお、資源エネルギー庁が公表している事業計画認定情報(年4回更新)を上手に活用することにより、抜けがないかチェックでき、表示が見当たらなかった物件についてもどれか想定が可能となり、今後どのあたりにどの程度の規模の物が設置されるのか予測できそうである。また、高崎市では H27 年に、また前橋市でも翌年、景観法に基づく条例を作成し規制をかけているが、対象範囲が限られる等課題を抱えていることも判った。

とりあえず、はるな工房近傍(高崎市上室田町)について確認できたものをプロットしたので OMS をご覧いただきたい。少人数で出来る調査範囲は限られてくる。趣旨に賛同いただける方は国安まで是非ご連絡ください。

連絡先：国安俊夫 メール：kuniyasu-t@y5.dion.ne.jp



誰もが楽しめる井野川を目指して

高崎地区会（協議会書記） 水井 清

群馬県環境アドバイザーに登録して 2003 年から高崎地区会で先輩の方々と井野川の浄化活動に参加しています。当時はごみが多く、2年間ぐらい続きました。雨の日、風の日、雪の日、寒い日、みんな一丸となって戦って来ました。

初代会長杉本さんになぜ、井野川を選んだのか？と聞いたところ「鳥川は大きすぎて」との事でした。井野川沿いに雑木「にせアカシア、篠竹、桑」等がカットされ、川は改修工事がちよく、ちよく行われています、時々鳥や魚、小動物をよく見かけましたが、その姿も消えている感じです。

「フナ」「ナマズ」「クキ」も見かけず悲しい感じです。

これから何が残せるだろうと考えることがあります。また楽しみもあります、美化活動に興味を持つ人達が所々に水仙、彼岸花を植えてくれた所を見かけました。

春、秋に一度歩いてみてください心を癒してくれます。また私達以外に草刈をしている方を見かけます。やっと高崎地区会の活動が芽を吹き始め、うれしくてたまりません。

会員全員参加はできませんが、暑気払い、忘年会の時、苦楽を共にした事を肴に一杯飲むのも非常に楽しみです。これからも大きな花を咲かせるため、一段とがんばって行きます。



井野川のごみ拾い



除草作業の様子

.....

地元住民らと河川環境整備

桐生・みどり地区 星野 定利

私達環境アドバイザーは、桐生市の西端となる渡良瀬川(相川橋)左岸が山の続きとなる程、樹木・雑草が繁茂し、猪・鹿が多く現れ、自然環境と安全が脅かされる状態でありました。今春コロナ下、環境アドバイザーが中心となり地元住民と協力して、樹木伐採を実施しました。(幅・長さ 100M、2日間延 14人、チェーンソー、キャタピラウインチ使用)国交省、市に相談して行ったのが功を奏し、残りの 4/5 は国でやって戴くことになりました。(土手は年 2 回義務化、河川敷無し)“イノシシは背中を見られるのを嫌う”ので里山・河川の整備は必須。「自助・共助・公助」の考えで、環境アドバイザーが住民と一体で動けば国もやる。総理の基本方針と一致。春先から河川と里山の下刈りを、新芽の内に、芽掻き下草刈りをすれば、労力は 1/10 で済む。“環境アドバイザーの仕事は忙しい”

もったいない運動で感じたこと ～～盛んになったテークアウト運動～～

過日久しぶりに家内と二人、昼食時に前橋市内の中華料理店に行き、定食セットを注文しました。おいしかったのですが、量が多く、従来から食の細い私達夫婦は、食べ残す事態となりました。するとそのマスターが「鈴木さん、わが店ではテークアウトを始めたくらいです。熱を通した料理ですから、お持ち帰りになったらいかがですか・・・」と申し出てくれました。「是非お願いします」と持ち帰り、夕食の一部としておいしくいただきました。

その日一日、何か爽やかな気分でした。

顧問 鈴木 克彬

.....

編集後記

新型コロナウイルス感染症予防のため、グリーンニュースの編集はメール会議で行っています。また、本年度に入ってから環境アドバイザー関連の各種イベントが中止になり、編集は苦勞すると思われましたが、皆様のご協力のお蔭でGN83号を発行することができました。

さて、本号（83号）には自然環境保全の話題が多く寄せられました。筆者は豊かな自然は健全な心身を育むと信じています。しかし、最近ショッキングなニュースが入ってきました。ユネスコの調査で我が国の子供の幸福感が先進38か国中20位、精神的幸福感に至っては37位でした。さらに、我が国の自殺者数は先進国でもトップクラスです。物質の豊かな我が国において子供たちが幸福感を持っていないのは何故なのか？筆者は子供たちの幸福感と我が国の自然環境の破壊との関連を心配しています。

高齢な筆者は戦後の食糧難の中で子供時代を過ごしてきました。しかし、私たちの周りには自然の豊かな里山がありました。そして水田の中のドジョウやフナと戯れ、物質の乏しい中でも健康で幸福な子供時代を過ごすことができました。残念ながら現在の農地は農薬で汚染され、多くの生物種が絶滅の危険にさらされています。また、山野で遊ぶ子供の姿も見かけなくなりました。このように、自然と隔離された生活を送っている若者たちの多くが昆虫を極端に恐れ、カブトムシさえ持つことができないのです。この様な環境で果たして健全な心身が育つのだろうか？環境破壊に伴い生物の多様性が失われつつある今、私たち人間は動物の一種であり、多くの生物と共生して進化してきた“生きもの”であることを忘れてはならないと思います。

環境アドバイザーの皆様は各地で自然環境を守るための活動を行っています。この様な活動によって我が国の里山の生態系が回復し、子供たちが再び山野で遊ぶ姿を夢見たいと思います。

編集委員長 井上 金治

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。各号のレイアウトは2月、4月、8月、11月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 登坂

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail:tosaka-hitoshi@pref.gunma.lg.jp